

令和 4 (2022) 年度

神戸大学大学院科学技術イノベーション研究科博士課程前期課程

修士論文作成の手引き

神戸大学大学院科学技術イノベーション研究科

2022 年 10 月

目次

| | |
|--------------------------------|---|
| I. はじめに..... | 1 |
| II. 学位審査の申請資格及び申請手続き等について..... | 2 |
| III. 修士論文予稿集原稿の作成・提出について..... | 2 |
| IV. 修士論文の提出について..... | 3 |
| V. 修士論文（最終版）の提出について..... | 4 |
| VI. 修士論文発表会について..... | 4 |
| VII. 修士論文作成要領..... | 5 |

I. はじめに

1. 学位審査の方法について

修士学位審査については、神戸大学大学院科学技術イノベーション研究科の学位論文審査に関する内規及び神戸大学大学院科学技術イノベーション研究科研究経過発表会実施要領に準ずる（13-15 ページ参照）。

なお、「神戸大学大学院科学技術イノベーション研究科学位論文評価基準」や本研究科のディプロマポリシー（11-12 ページ参照）についても確認しておくこと。

2. 修士学位審査に関する日程

| | 学生 | 教員 | |
|-----------------|----|----|--|
| 修士学位論文審査申請書提出期限 | ○ | | 2022年12月1日（木） |
| 審査委員の選出 | | ○ | 2022年12月15日（木） |
| 審査委員の決定 | | ○ | 2022年12月22日（木）（教授会） ・決定後，学生に通知する. |
| 修士論文の提出期限 | ○ | | 2023年1月30日（月） ・提出後，主査・副査からフィードバックを受けて最終版を完成させ，2月13日までに提出する. |
| 修士論文予稿集原稿の提出期限 | ○ | | 2023年2月13日（月） |
| 修士論文（最終版）の提出期限 | ○ | | 2023年2月13日（月） |
| 修士論文発表会（最終試験） | ○ | ○ | 2023年2月21日（火） |
| 修士論文審査結果報告書提出期限 | | ○ | 2023年2月21日（火） |
| 修了判定 | | ○ | 2023年3月3日（金）（教授会） |
| 修了者発表 | | ○ | 2023年3月6日（月） 自然科学総合研究棟1号館1F掲示板に掲示. |

II. 学位審査の申請資格及び申請手続き等について

1. 申請資格： 科学技術イノベーション研究科博士課程前期課程の学生は、研究経過発表会（1年次後期又は2年次前期に開催）で発表を行ったことの認定を受けなければ、学位論文の提出をすることができない。なお、研究経過発表会における発表者は、修了所要単位のうち、8単位以上を修得している者で、かつ講座主任の許可を得たものでなければならない。（研究経過発表会実施要領第2条，第6条参照）
2. 申請手続： 修士の学位審査を申請する者は、以下の手続きをすること。
①紙での提出：Wordで作成し、印刷した「修士学位論文審査申請書」（別紙様式1）に本人押印の上、指導教員に提出し承認を受けること。②データでの提出：「修士学位論文審査申請書」（別紙様式1）WordファイルをPDF化し、BEEF+ Venture上で提出すること。（押印不要）
なお、申請書に記載された論文題目は原則として変更できない。（論文題目が英文の場合は、和訳を付けること。）
3. 提出期限： 2022年12月1日（木）16：00（厳守）
4. 提出先： 科学技術イノベーション研究科 BEEF+ Venture 「修士論文」内【提出】修士学位論文審査申請

III. 修士論文予稿集原稿の作成・提出について

修士論文予稿集の作成のため、下記のとおり予稿集原稿を提出すること。

予稿集原稿は修士論文での要旨と異なり、図・グラフ等を使用して、修士論文の目的、実験や考察などの内容、主要な結論・成果を簡単かつ明瞭に記述すること。A4用紙1枚にまとめ、電子版を提出すること。予稿集原稿の提出期限、提出先、様式は以下のとおり。

- ・提出期限： 2023年2月13日（月）16：00（厳守） ※余裕を持って提出すること。
- ・提出先： 科学技術イノベーション研究科 BEEF+ Venture 「修士論文」内【提出】修士論文予稿集
- ・様式： 添付資料（17ページ）の様式で作成してください。

| | |
|--------|--|
| ファイル形式 | Adobe Acrobat Reader で表示・印刷可能なものとし、フォントは埋め込むこと。ただし、ソフトによるPDF化が困難な場合はスキャンも可。 |
| ファイル名 | 半角の、英字・数字・ハイフンで。 M【西暦の年度】・【教育研究分野の記号（下記）】・【学籍番号の数字先頭から2桁】・【学籍番号の数字下3桁】・abstract.pdf とすること。 例：2022年度 先端IT 学籍番号123P456P の場合 M2022-3IT-12-456-abstract.pdf <教育研究分野の記号> バイオロガクシヨソ：1BP 先端膜工学 ：2BM 先端IT ：3IT 先端医療学 ：4MT |

IV. 修士論文の提出について

修士学位論文審査申請書が受理された者は、修士論文を次頁以降に示す所定の書式で作成し、以下のとおり所定の期限までに電子版を提出すること。

- ・ 提出期限 : 2023年1月30日(月) 16:00(厳守) ※余裕を持って提出すること。
- ・ 提出先 : 科学技術イノベーション研究科 BEEF+ Venture 「修士論文」内「【提出】修士論文 審査教員名」
 ※各自、審査教員(主査1名、副査3名 計4名)にそれぞれ提出すること。
 ※審査教員ごとに提出先があります。
 <例>審査教員が神戸太郎先生の場合 → 提出先「修士論文 神戸太郎」
- ・ 提出物 : 修士論文 (VII. 修士論文作成要領を参照)

| | | | | | | | |
|-----------|--|-----------|-------|-------|------|-------|-------|
| ファイル形式 | <p>修士論文毎に、表紙を含め全体を1本のPDFファイルとすること。 Adobe Acrobat Reader で表示・印刷可能なものとし、フォントは埋め込むこと。ただし、ソフトによるPDF化が困難な場合は、スキャンも可。 ファイルサイズが大きすぎる場合にはサイズの縮小をお願いすることがあります。</p> | | | | | | |
| ファイル名 | <p>半角の、英字・数字・ハイフンで。 M【西暦の年度】・【教育研究分野の記号(下記)】・【学籍番号の数字先頭から2桁】・【学籍番号の数字下3桁】.pdf とすること。</p> <p>例：2022年度 先端IT 学籍番号123P456Pの場合 M2022-3IT-12-456.pdf</p> <p><教育研究分野の記号></p> <table style="width: 100%; border: none;"> <tr> <td style="width: 33%;">バイオテクノロジー</td> <td style="width: 33%;">先端膜工学</td> <td style="width: 33%;">: 2BM</td> </tr> <tr> <td>先端IT</td> <td>先端医療学</td> <td>: 4MT</td> </tr> </table> | バイオテクノロジー | 先端膜工学 | : 2BM | 先端IT | 先端医療学 | : 4MT |
| バイオテクノロジー | 先端膜工学 | : 2BM | | | | | |
| 先端IT | 先端医療学 | : 4MT | | | | | |

V. 修士論文（最終版）の提出について

修士論文提出後、主査・副査からフィードバックを受けた上で、次表のとおり最終電子版を完成させ、以下のとおり所定の期限までに提出すること。

- ・ 提出期限 : 2023年2月13日（月）16:00（厳守） ※余裕を持って提出のこと。
- ・ 提出先 : IV. 修士論文の提出についてを参照のこと
- ・ 提出物 : 修士論文（最終版）

| | |
|--------|---|
| ファイル形式 | 修士論文毎に、表紙を含め全体を1本のPDFファイルとすること。 Adobe Acrobat Reader で表示・印刷可能なものとし、フォントは埋め込むこと。ただし、ソフトによるPDF化が困難な場合は、スキャンも可。 ファイルサイズが大きすぎる場合にはサイズの縮小をお願いすることがあります。 |
| ファイル名 | 半角の、英字・数字・ハイフンで。 M【西暦の年度】・【教育研究分野の記号（下記）】・【学籍番号の数字先頭から2桁】・【学籍番号の数字下3桁】-final.pdf 例：2022年度 先端IT 学籍番号123P456Pの場合 M2022-3IT-12-456-final.pdf <教育研究分野の記号> バイオテクノロジー：1BP 先端膜工学 : 2BM 先端IT : 3IT 先端医療学 : 4MT |

VI. 修士論文発表会について

修士論文発表会：2023年2月21日（火）

※発表順は追ってご案内します。

VII. 修士論文作成要領

修士論文を作成するにあたっては、下記の作成要領をよく読むこと。

【使用言語】

日本語（和文）又は英語で執筆すること。

【形式と用紙】

- ① 原則として横書きとする。
- ② 合計枚数の制限はない。
- ③ 行数・1行当たりの文字数は、和文の場合、1ページ30～35行、1行35～40字程度（手書きの場合は1行当たりの文字数はこれより少なくてもよい）、英文の場合はダブルスペースとする。
- ④ 文字フォント・字体は原則として、本文については、和文は明朝体、英文は Century 又は Times New Roman とする。また図表については、英文で Arial 又は Helvetica とする。
- ⑤ 文字サイズは 10.5 ポイントとする。
- ⑥ ページの余白は左 25mm、右 25mm、上 25mm、下 30mm の余白をとる。
- ⑦ フッター（ページ番号）は本文 1 枚目から通し番号をつける。ページ番号位置は各ページの下部（下端から 20mm 程度）とする。
- ⑧ 使用用紙は日本標準規格 A4 版の用紙とし、各自で用意すること。
- ⑨ 片面又は両面印刷とする。

【論文の構成】

論文の構成は以下の形式に従うこと。

1. 表紙、中表紙（pp.9-10 の別紙様式 2 を参照）

表紙は、和文の場合、「2022 年度修士論文」、題目、神戸大学大学院科学技術イノベーション研究科、科学技術イノベーション専攻、氏名、指導教員名、審査教員名、提出年月日（西暦）の順に書くこと。

英文の場合は、「Master's Thesis」、題目、氏名、「Kobe University」、「Graduate School of Science, Technology and Innovation」、「Department of Science, Technology and Innovation」、指導教員名、審査教員名、提出年月日の順に書くこと（すべて英文表記）。

中表紙も同じ書式で作成し、上半身の名刺判の写真を中表紙の裏左下に添付すること。

2. 和文要旨（和文執筆のみ必要。英文執筆の場合は不要）

和文要旨は、「和文題目」、「和文氏名」のあとに、見出しとして「要旨」と書き、要旨を 800 字程度（1 ページ程度）で記述する。研究の目的、実験や考察などの内容、主要な結論・成果を簡単かつ明瞭にのべること。これだけで論文の概要が理解できることが必要である。

3. 英文要旨（和文・英文執筆ともに必要）

英文要旨は、「英文題目」、「英文氏名」のあとに、見出しとして Abstract と書き、要旨を 500 語程度（1 ページ程度）で記述する。研究の目的、実験や考察などの内容、主要な結論・成果を簡単かつ明瞭にのべること。これだけで論文の概要が理解できることが必要である。

4. 目次

目次は、本文に現われる章、節、節の細分であるサブセクションのタイトル及びそれらが始まるページ番号を記述すること。「謝辞」、「参考文献」、「付録」などは本文に含まれないが、これらの項目についてもページ番号を付けて目次に記しておくこと。

5. 本文

- 本文は、必ず、「緒論」・「緒言」・「序論」・「Introduction」などの章から始め、「結論」・「結言」・「まとめ」・「Conclusion」などの章で完結すること。なお、論文中に現われる専門的な用語や概念については、本文を読むだけで理解できるように説明を適宜付し、自己完結的な形で記述すること。
- 図表はすべて英文で作成し、必ず Fig. 1, Fig. 1 (a), Fig. 1.1, Table 1 などの図表番号とキャプションを入れること。図表のキャプションも英文で記述すること。なお、下記に示す「事業化の可能性についての考察」においては和文での図表の作成も可とするが、英文での作成を強く推奨する。

プログラムやフローチャートは必要な場合のみ、図として作成する。図表、写真、プログラム、フローチャートなどを補足的に付す場合には、後述の「付録」としてあつかうこと。

- ◎ 「事業化に向けたビジネスプラン」・「Business plan for commercialization」等に関する独立の章を設け、当該研究の事業化の可能性についての考察を記述すること（※）。

※ 科学技術イノベーション研究科の修士論文には、各人の研究の成果に加え、事業化の可能性についての考察が含まれていなければならない。（「科学技術イノベーション研究科学学位論文評価基準」参照）

本文中で事業化の可能性について考察がなされていない場合、修士論文として認められないので注意すること。

考察の結果は、整理した上で、必ず、図表等にまとめ、本文中で丁寧に説明すること。

具体的な記述方法については、16 ページ『修士論文「事業化の可能性についての考察」の基準について』を参照のこと。

6. 謝辞

研究を行うにあたり指導・支持・討論・批判などを受けた人・組織に対する謝辞を簡潔に述べる。

7. 参考文献

研究を行うにあたり引用した文献には、文献番号（通し番号や [Codd 1991] など）を付け、参考文献一覧は本文の最後にまとめて書く。以下に様式の例を示す（詳細については、指導教員の指示に従うこと。ただし、論文内で様式を統一すること。）。

・論文

著者名, “論文題目,” 雑誌または論文集名（英文の場合は斜体にする）, Vol. x, No. xx, pp. xxx–xxx (出版年)

<例>

H. Morita, “Instruction for master thesis,” *Journal of xxx*, Vol. 1, No. 2, pp. 123–129 (1995)

・書物

著者名, “書名,” 出版社名 (出版年), pp. 123–129.

<例>

神戸太郎, “イノベーション,” ○○出版 (2005), pp. 12–23.

8. 付録

本文を簡潔な表現に保つために、本文から離れる事項は付録という形で記述する。例えば、(a) 式の誘導や定理の証明など、(b) 生の実験データや数値表など、(c) 実験方法や装置の補足説明など、(d) プログラムのソースリストや実行結果など、(e) 本研究に関連して発表した文献など。

【不正行為について】

神戸大学では、「神戸大学における学術研究に係る不正行為の防止等に関する規則」において以下のとおり「不正行為」を定義し、厳しく禁止しています。不正行為に該当した場合、神戸大学教学規則第55条の2の規定により懲戒処分の対象となり、修了後も神戸大学学位規程第22条の規定により修士の学位が取り消されます。

論文の作成に当たっては、次頁の不正行為を避けるよう十分注意することとし、不明な点があれば指導教員に必ず確認するようにしてください。

(以下、「神戸大学における学術研究に係る不正行為の防止等に関する規則」より引用)

(定義)

第2条 この規則において「不正行為」とは、学術研究活動において故意又は構成員としてわきまえるべき基本的な注意義務を著しく怠ったことによる、次の各号に掲げる行為をいう。

- (1) 捏造 研究成果の作成又は報告の過程において、データ(実験, 観測, 観察又は解析により得られる数値又は情報をいう。以下同じ。)として実在しないものを使用すること。
- (2) 改ざん 研究成果の作成又は報告の過程において実在するデータを改変して使用すること。
- (3) 盗用 研究成果の作成又は報告の過程において先行する他人の研究成果(未公表のものを含む。)を他人のものであることを知りながら、それを示さないで使用すること。
- (4) 上記各号以外の研究活動上の不適切な行為であって、科学者の行動規範及び社会通念に照らして研究者倫理からの逸脱の程度が甚だしいもの。

(別紙様式1)

修士学位論文審査申請書

年 月 日

科学技術イノベーション研究科長 殿

| | |
|--------------|-------------------|
| 指導教員 | |
| 専攻 | 科学技術イノベーション |
| 学籍番号 | |
| 前期課程 在学期間 | 年 月入学 年 月卒業 年間 |
| 氏名 | 印 |
| 生年月日 | (西暦) 年 月 日 |

このたび修士（科学技術イノベーション）の学位を受けたいので学位論文の審査を申請いたします。

(論文題目) (英文の場合は和訳を付けること)

.....

.....

.....

.....

.....

.....

| | |
|-------|--|
| 指導教員印 | |
|-------|--|

(注意事項)

- 論文題目は、句読点等を含め最大80字以内に収めるようにしてください。

（別紙様式2）

2022 年度 修士論文

○○○○○○題目○○○○○○

神戸大学大学院科学技術イノベーション研究科
科学技術イノベーション専攻

○○氏名○○

指導教員

審査教員 主査

副査

副査

副査

○○○○年○○月○○日

Master's Thesis

○○○○○○ Title ○○○○○○

○○ Name ○○

Kobe University

Graduate School of Science, Technology and Innovation

Department of Science, Technology and Innovation

Supervisor:

Primary Examiner:

Examiner:

Examiner:

Examiner:

○○○○○ ○○th, ○○○○○

神戸大学大学院科学技術イノベーション研究科 学位論文評価基準

平成28年3月8日 科学技術イノベーション研究科設置準備委員会承認

一部改正 平成29年12月28日

神戸大学大学院科学技術イノベーション研究科は、学位論文について、研究科のディプロマ・ポリシーに基づき以下の基準により総合的に評価する。なお、この基準に定めるもののほか必要なものは、各分野で定める。

(修士論文の評価基準)

1. 先行研究や関連研究が十分に検討されており、当該研究の位置付けが明確になされていること。
2. 適切な研究方法を選択し、それを十分に理解したうえで実行していること。
3. 研究内容が新規性及び学術的価値を有すること。
4. 事業化の可能性について考察がなされていること。
5. 表現・表記法が適切であること。
6. 論旨が明確かつ一貫しており、論文全体が論理的に展開されていること。

神戸大学大学院科学技術イノベーション研究科

学位授与に関する方針（ディプロマ・ポリシー）

平成27年9月24日 科学技術イノベーション研究科設置準備委員会承認
最近改正 令和2年1月30日

【博士課程前期課程】

神戸大学大学院科学技術イノベーション研究科は、産業界の様々な分野からイノベーションを推進するリーダーが求められているという背景を受け、前期課程において、学際領域における先端科学技術の研究開発能力とともに、知的財産化、生産技術開発、市場開拓までの学術的研究成果の事業化移行プロセスをデザインするアントレプレナーシップを兼ね備えた理系人材を養成することを目指している。この目的を達成するため、本研究科では、教育課程を通じて授与する学位に関して、国際的に卓越した教育を保証するため、以下に示した方針に従って当該学位を授与する。

学位：修士（科学技術イノベーション）

・学位授与に関する方針（ディプロマ・ポリシー）

神戸大学のディプロマ・ポリシーに基づき、科学技術イノベーション研究科は以下に示した方針に従って当該学位を授与する。

- ・ 本研究科に2年以上在学し、本研究科規則に定める修了に必要な単位を修得し、かつ、必要な研究指導を受けた上、修士論文の審査及び最終試験に合格すること。
- ・ 神戸大学のディプロマ・ポリシーに定める能力に加え、修了までに本研究科学生が身につけるべき能力を次のとおりとする。

「人間性」

- ・ 豊かな教養を備え、様々な立場の人々と協働して課題を解決する力。
- ・ 科学技術が社会へ及ぼす影響について理解し、高い倫理性に基づき適切に行動できる力。

「創造性」

- ・ 複眼的視野及び学際的視点に立ってものごとを考えることができる力。
- ・ 科学技術で新たな社会的価値を創造するための課題を自ら設定し、その解決に向けた取り組みを進めることができる力。

「国際性」

- ・ グローバルな視野に立って研究に取り組み、その成果を論理的かつ明瞭な言葉によって発信することができる力。

「専門性」

- ・ 各自の研究分野における卓越した専門知識と他分野並びにアントレプレナーシップに関する基礎知識を修得することにより、専門的かつ学際的な観点から研究を行う力。

神戸大学大学院科学技術イノベーション研究科

修士学位論文審査に関する内規

平成28年4月1日制定

一部改正 平成28年9月21日

一部改正 平成29年12月28日

(趣旨)

第1条 この内規は、神戸大学大学院科学技術イノベーション研究科（以下「研究科」という。）において前期課程の修了者に授与する修士の学位論文審査に関し必要な事項を定めるものとする。

(学位論文等の提出)

第2条 学位論文の審査を願い出るときは、次に掲げる書類等を指導教員を経て研究科長に提出するものとする。

(1) 学位論文審査申請書（別紙様式1） 1部

(2) 学位論文 4部

2 学位論文審査申請書の提出時期は、3月修了予定者にあつては12月、9月修了予定者にあつては6月とし、各時期における提出期間は、研究科教授会（以下「教授会」という。）の議を経て、別に定める。

3 学位論文の提出時期は、3月修了予定者にあつては2月、9月修了予定者にあつては8月とし、各時期における提出期間は、教授会の議を経て、別に定める。

4 前2項の規定にかかわらず、教授会の議を経て、特に必要と認めるときは、提出の時期及びその期間を別に定めることができる。

5 学位論文には、表紙（別紙様式2）を付するものとする。

(学位論文審査委員会)

第3条 学位論文等の提出があつたときは、論文審査及び最終試験を行うため、学位論文提出者ごとに学位論文審査委員会（以下「審査委員会」という。）を置く。

2 審査委員会は、研究科の教授又は准教授を主査とし、アントレプレナーシップ講座の教授又は准教授2人を含む研究科の教員4人以上（少なくとも教授1人を含める。）をもって組織する。

3 教授会の議を経て、審査のため必要があると認めるときは、前項に定めるもののほか、学位論文提出者の専門分野に関係の深い学術領域の研究科博士課程前期課程担当相当の者を審査委員に加えることができる。

4 審査委員の選定は、学位論文提出者を担当する講座からの推薦に基づいて、教授会の議を経るものとする。

(最終試験)

第4条 審査委員会は、学位論文を中心として、最終試験を行う。

2 審査委員会は、最終試験の方法等を定めて、学位論文提出者に通知するものとする。

3 審査委員会は、修士論文発表会を開催するものとする。

(審査結果の報告)

第5条 主査は、論文審査及び最終試験が終了したときは、修士論文審査結果報告書（別紙様式3）を研究科長に提出するものとする。

附 則

この内規は、平成28年4月1日から施行する。

附 則

この内規は、平成28年9月21日から施行する。

附 則

- 1 この内規は、平成30年4月1日から施行する。
- 2 この内規施行の際現に在学する者（以下「在学者」という。）及び平成30年4月1日以後において在学者の属する年次に転入学又は再入学するものについては、なお従前の例による。

研究経過発表会実施要領

平成28年4月1日制定

一部改正 平成29年12月28日

(趣旨)

第1条 この要領は、科学技術イノベーション研究科博士課程前期課程修了者に係る修士学位論文審査に先立ち実施する研究経過発表会（以下「発表会」という。）に関し必要な事項を定めるものとする。

(発表者の要件)

第2条 発表会における発表者は、修了所要単位32単位のうち、8単位以上を修得している者で、かつ講座主任の許可を得たものでなければならない。

(開催の時期等)

第3条 発表会は、1年次後期又は2年次前期に開催するものとし、講座主任は、研究経過発表会発表者名簿（別紙様式1）を科学技術イノベーション研究科長（以下「研究科長」という。）に提出し、研究科長は、開催の日時、場所、発表者の氏名及び研究題目を本研究科の教員及び学生に通知するものとする。

(研究経過報告書)

第4条 講座主任は、発表を行った学生について、研究経過報告書（別紙様式2）を研究科長に提出するものとする。

(特例研究経過発表会)

第5条 聴講派遣学生又は研究指導委託学生として外国の大学等に留学を許可されている者の発表については、その者が研究進捗について書面で指導教員に説明することにより発表に替えることができるものとする。

2 前項の規定により発表に替える場合、当該学生の指導教員は、事前に講座主任を経て、特例研究経過発表会発表代替届（別紙様式3）を研究科長に提出しなければならない。

(学位論文の提出)

第6条 学生は、発表会において発表を行ったことの認定を受けた後でなければ学位論文を提出することができない。

(特例措置)

第7条 転入学者及び再入学者の発表会については、別に指示する。

附 則

この要領は、平成28年4月1日から施行する。

附 則

1 この要領は、平成30年4月1日から施行する。

2 この要領施行の際現に在学する者（以下「在学者」という。）及び平成30年4月1日以後において在学者の属する年次に転入学又は再入学する者については、なお従前の例による。

修士論文「事業化の可能性についての考察」の基準について

PBL最終発表会における内容（発表内容・質疑応答内容）およびその後の提出レポートの内容を「たたき台」にして、各人の研究テーマを、技術戦略、知財戦略、事業戦略、財務戦略の四つの視点から考察して下さい。

但し、研究テーマによって、どの視点に重きを置くかは変わってくるはずですが、例えば、基礎研究もしくはそれに近いステージをテーマにする場合には、技術戦略、知財戦略を具体的かつ詳細に考察し、事業戦略についてはイノベーション・アイデアのレベルを、財務戦略についてはイメージ程度を考察するケースもあり得ます。逆に実用化に近いステージをテーマにする場合には、技術戦略や知財戦略については既知の事実を簡潔に整理・分析した上で、事業戦略や財務戦略に重きを置いて考察し、イノベーション・ストラテジー、つまりより具体的なビジネスプラン的なものとしてまとめることもあり得ます。

どちらにしても、これまでの教員からの指導内容をよく踏まえて、どの視点に重きを置いて考察するかを検討して下さい。

なお、修士論文については、「事業化の可能性についての考察」について、独立の章を立て、しっかりとした文章としてまとめて下さい。

科学技術イノベーション研究科教務・入試委員会

○タイトル○ 11-12pt 左詰め。長いタイトルの場合は適宜枠を

広げて良い。ただし改行幅は行間 1 行として詰めること。

Title 9pt 左詰め。長いタイトルの場合は適宜枠を広げて良いが、改行幅は行間 1 行として詰めること。

<<タイトル枠と本文との間を 3mm 空ける。タイトル・氏名枠の線は描かない。>>

○○氏名○○

9pt, 縦 7mm×横 55mm。右詰め。

FirstName LASTNAME

ローマ字氏名。9pt, 右詰め。

| | | |
|---------------|---|---------------|
| Abstract----- | 英文の Short abstract は 1 カラムで書き、150 words 程度の文章でまとめること。フォントは 8pt の Century 又は | -----Abstract |
| Abstract----- | Times New Roman で記述すること。イタリックは使用しても良いが、必要でない限り、Bold (太字) にはしない | -----Abstract |
| Abstract----- | こと。なお、予稿集原稿を英文で記述する場合は、この 150words の Short abstract は不要。 | -----Abstract |
| Abstract----- | | -----Abstract |
| Abstract----- | | -----Abstract |

【フォーマット】原稿は A4 サイズのテンプレートファイル上で 1 ページ以内に作成して提出する。

書式については、以下のとおりとすること。

A4 サイズテンプレートにおいて

外枠：上 17.5mm, 下 17.5mm, 左 17.5mm, 右 17.5mm

本文：2 段組。各段の幅 85mm, 段間 5mm

文字数：和文の場合、カラムあたり 30 文字程度。

行数：約 50 行程度。改行幅を固定する場合は改行幅を 11~12pt に指定すること。

文字：和文は明朝体、英文は Century 又は Times New Roman(Times) を基本とする。フォントは 8pt。文字の装飾(太字, イタリックの使用)は任意とする。

【言語】原稿は和文または英文とする。英文の場合、150 words の Short abstract は不要。

【文章構成】原稿は【緒言(Introduction)】等の章から始め、【結果と考察(Results and Discussion)】等の章で完結させる。研究内容によっては、【結果(Results)】と【考察(Discussion)】とを分けても良い。【理論(Theory)】【解析方法(Analysis)】【実験方法(Experimental)】等の各項目毎に段落を構成し、簡潔に研究内容をまとめる。なお、事業化の可能性に関する考察についても必ず記述すること。また、【参考文献(References)】を項目に加えても良い。参考文献番号は右の例示のように表記すること [1]。

【図表】図表および写真は本文中に挿入する。ただし出来る限り右側に寄せることが望ましい。またカラー表示されているものについても白黒印刷すること。グラフ上で濃淡のみで表示されると異なる線が区別できないことがあるので、注意すること。

図表のタイトルは下図にならって英文で記述すること。図表タイトルの文字は最小 8pt で Arial 又は Helvetica とすること。

【注意事項】

指定の書式および縮切は厳守すること。

以上

以下は、英文で予稿集原稿を作成する場合の注意事項です。

Format Manuscript of Abstract of Master's Thesis should be written on the A4 template of MS Word file. The format is shown as follows; Margin: Up 17.5 mm, Down 17.5 mm, Left 17.5 mm, Right 17.5 mm Body: 2 columns with width 85 mm, gap 5 mm, about 50 lines for each column

Fonts: Century or Times New Roman (Times) are recommended.

Font size: 8pt. Bold and Italic may be used at appropriate parts.

Language

English short abstract is not necessary if all part of abstract is written in English.

Structure

Extended Abstract should include "Introduction", and "Results and Discussion". ("Results" and "Discussion" can be separated.) "Theory", "Analysis" and "Experimental" should be added as needed. Discussion about the possibility of commercialization must be included. "References" can be indicated with the number as follows [1].

Figures and Tables

Figures, Tables and Images (Photograph) can be inserted on the right side of abstract format. Color images on the PDF file are printed as B/W images with gray-scale.

Figure captions should be written in English by 8pt of Arial or Helvetica.

Notices

Abstract is printed as-received. The size of the figures, tables, and images should be handled carefully.

Keep the manuscript format and deadline of the Abstract.

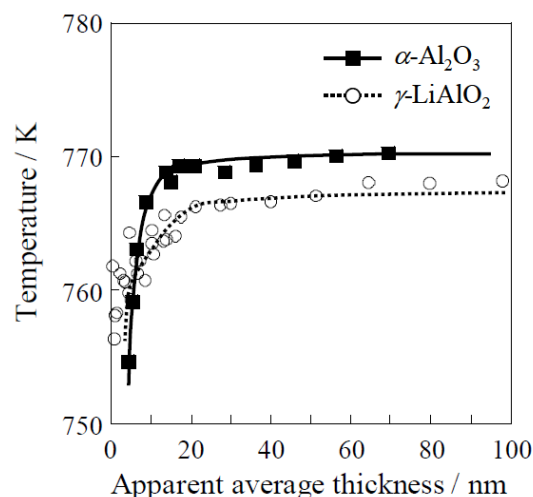


Fig. 1 Variation of T_{peaktop} temperature of DTA with the apparent average thickness for various kinds of inorganic powders / (Li_{0.52}Na_{0.48})₂CO₃ coexisting systems.